

カルメル

霊性センターニュース



男子跣足カルメル修道会上野毛聖堂 聖母子像

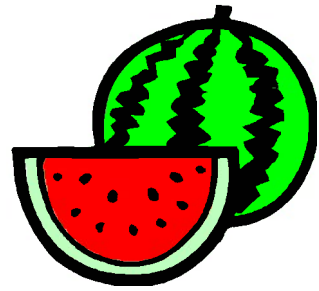
2016年7月

322号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	19
東京	20
京都	24
名古屋	28
北陸	29
諸所の企画案内	31
年間購読(郵送)のご案内	42
編集後記	43

心の泉





第三卷

第二章 真理は、静けさのうちに私たちの心に語る

1 子

「主よ、お話してください。あなたのしもべは聞いています」(サムエル上3・10)。「私はあなたのしもべです。私の知恵を照らし、あなたの掟を悟らせてください」(詩編119・125)。「私の心を、あなたの口に傾けさせてください」(詩編119・36)。「あなたのことばが、露のように、私の心にしたたるように」(申命記32・2)。その昔、イスラエルの子らは、モーセに向かって、「あなたが話してください。私たちは聞いています。しかし、主が直接に話されると、私たちは死んでしまいます。」(出エジプト20・19)と言ったのです。ああ主よ、しかし私は、そのように祈りたくありません。むしろ、預言者サムエルのように、謙遜と燃える心をもってお願いいたします。「主よ、お話ください、あなたのしもべは聞いております」と。モーセやそのほかの預言者のことばではなく、すべての預言者に靈感を与えて照らしてくださる主なる神よ、あなたが私にお話してください。あなたは預言者によらずとも、私にあらゆることを教えてください。しかし預言者は、あなたなしには何事もできない者なのです。

いつくしみの特別聖年を生きる

— 7月—

主イエス・キリスト、あなたは
わたしたちが天のおん父のように
いつくしみ深い者となるよう教え、
あなたを見るものはおん父を見る と言われました。
み顔を示してくださいれば わたしたちは救われます。
あなたの愛に満ちたまなごしによって、
マグダラのマリアは、
この世のものだけに幸せを求めることから
解放されました。
～特別聖年のための祈り～



わたしは、マグダラのマリアの態度をまねします。
イエスさまのみ心を奪った彼女の驚くべき、
愛に満ちたあの大胆さが、
わたしの心を魅了するのです。・・・

人が犯しうるありとあらゆる罪を犯したとしても、
いつも神のいつくしみの愛に同じ信頼をもち続け、これらの無数の罪も
激しい火の中に投げ入れられた一滴の水のように思うでしょう。

～テレーズ～* 『自』 383p

一日の終わり・・・振り向くとさまざまな足跡がついています。心配はいりません、
それらすべてをマグダラのマリア（7月22日祝日）とテレーズに支えられて神の
いつくしみの愛に信頼して「一滴の水」のようにいつくしみの大海にそっと流し入
れていただきましょう。

伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

* 『幼いイエスの聖テレーズの自叙伝』伊従改訳、ドン・ボスコ社

人を赦す (32)

くのり 彰

今なお憎しみの連鎖が世界中の至る所で続いています。パレスチナでのイスラエルとアラブの血で血で洗う争いは、人間の愚かさを見事に象徴しています。まさに世の終りまで続くかのようです。アルカイダや IS のテロによる戦いは、家族や友人を失った人々の悲しみと憎悪をあと立て、報復の爆撃は、同様に、家族や友人を失ったテロリストの悲しみと憎悪をかき立てます。人間的地平に立つのであれば、まさにお手上げです。相手が絶滅するまで、続くのでしょう。

小さな地上戦では、お互いが残虐行為を繰り返すことでしょう。やられたらやり返す。そのたびに、悲しみと憎しみは倍増していきます。それは、人間として当然の自然的感情と言えます。相手を赦すなどということは、口が裂けても言えないと、お互いが思っていることでしょう。

この泥沼のような状態は、いつでもどこでも、起きています。戦争やテロといった大ごとに至らなくても、さまざまな次元で、憎しみの連鎖が起こります。これが、この世の現実なのでしょう。ちょっとした小さな侮辱、無視、意地悪など、それを受けた者は、仕返しを意識的に、あるいは無意識のうちに実行します。すると、またその仕返しを、と延々と繰り返されることとなります。多くの場合、理性や法律などのブレーキがかかり、新聞に載るような事件にはならないでしょうが、精神を病んだり、反社会的行動に出る者も出てくるかもしれません。

このような憎しみの連鎖こそ、人類の罪、原罪の結果と言ってよいのではないのでしょうか。そして、この愚かな憎しみの連鎖を断ち切るこそ神のみ心と受け取り、ナザレのイエスは、すすんでカルワリオの丘へと向かったと思われまます。

ヨハネは、自分の方へイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の子羊だ」(ヨハ 1・29)。

私たちが憎しみの連鎖を断ち切った十字架のキリストに倣わない限り、神のいつくしみの地平は永遠に開かれてこないでしょう。アメリカの若い女性は、キリストのように自分の十字架を担ったのです。(続く)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (104)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

ピカレスク*な召命 (2)

もう一つの事件も、グラナダで起きました。聖人は、管区長代理という職務のために、他の共同体を訪問したり、世話をするために修道院の不在を余儀なくされていました。ある時、グラナダへもどってくると、長上と共同体は、二人の者を修道者として受け入れていました。「一人は、ミサのため、他の一人は福音書のため」、すなわち、一人は司祭で、他の一人は助祭だったのです。

修道者たちはとても満足しており、新しい入会者、新しい契約者は、とても良い人で、非常に誠実な人たちだと語りました。

「聖人は、彼らに会うために修練院へ昇っていき、彼らと話をし、一緒に過ごしました」。しばらくして降りてくると、院長と他の修道者に言いました。

「白い口髭のある人は、あなた方に嫌な思いをさせ、家に戻ることでしょう」。例のマルティン修士は、こう語っています。「その通りになりました。福音書のくだんの修士は、白い口髭をもった者の一人で、それから数日の間、脳卒中になったかのような振りをし、修道院中を大騒ぎさせました。皆は医者を呼び、医者は彼を診断した後、腿や腕の結紮(けっさつ)が必要だ言い、その処置がなされ、他の療法もなされました。この医者と他の人々は、彼が脳卒中の振りをし、それを修道会から出るチャンスにしようとしているのに気づいたので、修道服をはぎとり、彼を追い出しました。そのことをこの証人は見た——とマルティン修士は断言しています——というのも、彼はその場にいたからです」。



*スペイン語のピカレスカとは、「ならず者、無頼漢」の意味で、日本語で言えば、「やくざ」でしょうか。その形容詞、ピカレスクには、「ならず者の、悪党の」の意味だけでなく、「いたずらっぽい、お茶目な」の意味もあり、親愛の情も込められています。

年間第十四主日 C (ルカ 10 : 1-12、17-20)

第二バチカン公会議が述べているように、教会は本来宣教者なのです。永遠の父のご計画によって、教会は御子であるキリストと聖霊の宣教の使命にその源があります。これは教会にふさわしい召命で、教会の最も深いアイデンティティ、独自性です。教会は父のいつくしみのみ顔であるイエス・キリストの福音を述べ伝えるために存在しています。世界中の特定の場所に根を下ろし、その場所を超えて広がっていきます。キリストのみことばの実践であり、キリストの恵みといつくしみにのうちにやられる教会活動は、キリストを宣教し、キリストとの親しい交わり、信仰へと導くために、広く世界中のあらゆる地域の人々、全ての人に提供されています。

今日の福音は、イエスが十二使徒以外の七十二人を任命し、ご自分の代わり町や村に二人ずつ派遣されたと述べています。彼らは人々と交わり、神の愛を知らせ、病人や傷ある人の手当をし、争いごとの仲裁をし平和をもたらして行きました。これら七十二人は何を話すべきか、何をすべきかなどの前準備は何もせず、ただ彼らのイエスへの信仰—イエスと共に過ごして身につけたイエスの教えとイエスへの信頼—だけを持って出かけました。彼らの弱さや不完全さをよくご存知のイエスは、出発前の彼らに“敵のあらゆる力に打ち勝つ権威”を授けてくださいました。イエスの使命と権威を帯びて、病人を癒し、人々を改心させ、失っていた真のいのちに生きる喜びを与え、七十二人は予想以上の成果を上げて戻ってきました。

この七十二人のように、わたしたちキリスト者も神の国がすぐ身近にあることを周りの人たちに知らせるために呼び集められています。イエスに心を向けたわたしたちの日々の生活を通して、イエスを示し、イエスの教え、その生き方、イエスとの親しい生活を知らせるのです。イエスの時代から二千年経た今でも同様です。優しい配慮を何気ない小さな行為にしていくことができます。病気の人、孤独の人、助け手の無い人、高齢の人々の心の声に耳を澄ませ、響いてくる相手の気持ちをそのまま受け留め、共に祈り、彼らの慰めとなることはイエスの望みです。わたしたちはイエスの平和を人々に与えなければなりません。今、神の恵みのうちに、わたしたちは呼び集められています。世界中の人々が御父のいつくしみのみ顔であるイエス・キリストに従い、与えられた真の喜び、静けさ、平和のうちに、一人ひとりが神のいつくしみを伝えていく者となりますように。神の恵みは限りなくこの上ない力があります。それはわたしたちに対する神の愛の最も強力な証しです。

イエスはわたしたちを喜ばせたいのです。何か良ことをしたからではなく神の国の一員として救いのために働いてきたことを喜んでほしいと思っておられます。平和！を掲げましょう。平和！がわたしたちの共通の喜びのしるしとなりますように。平和は神の国の存在のしるしです。神の平和がいつも私たちの心のうちに、またわたしたちの家庭にいつもありますように。

(Sr. Paulina)

年間第15主日

善いサマリア人のたとえ

(ルカ10:25~37)

善いサマリア人のたとえは、たとえであって、現実にあった出来事ではありませんが、現実にもこういう人がいたらどういう人であったか考えてみるのも面白いでしょう。当時、現代のような観光旅行は庶民にとってありえないことでした。サマリア人である主人公が、ユダヤの首都の近くを旅していました。多分自宅から数十キロ離れた場所です。ロバに乗っての旅ですから決して短い距離ではありません。ロバに乗って旅するのは普通でした。おそらく、商売か何かの用事でエルサレムを訪れる必要があったのでしょう。旅と商売に必要なお金だけでなく、念のために少し余分なお金を持っていたでしょう。

彼は強盗に襲われて半死半生の人を見て、哀れに思い、傷口に油とぶどう酒を注ぎ、ロバに乗せ宿屋に連れて行き、介抱しました。翌朝、2デナリを宿屋の主人に渡し、介抱を頼み、費用がもっとかかったら帰りに払うと約束しました。その宿屋はその日泊まる予定の場所よりずっと手前にあったかもしれません。だとしたら彼は、倒れていた人を助けるために旅の予定を遅らせたこととなります。2デナリ(あるいはそれ以上)予定外の出費をしたので、帰りに家族の土産を買うことができなかつたかもしれません。予定より少し遅れて土産も買わずに帰った夫に、妻は疑いの目を向けるかもしれません。しかしもしそんなことがあっても、彼は何も悪びれず、また自慢もせず、見知らぬ人を助けたので時間とお金がかかったことを淡々と話すでしょう。

善いサマリア人がしたことは想像以上に難しいものです。私にはこういう体験があります。そのころある地方都市で県の出先に勤めていました。いつも定刻の5分前に着くように出勤していました。ところがその朝は少し寝坊してしまい、あわてて役所に向かって歩いていました。この調子だと定刻の2分前に着けそうだと考えていたとき、年取った婦人が私を呼び止め、市役所にはどう行くのかと尋ねました。私はとっさに頭の中で計算して、道を教えるのなら1分ですむから教えても遅刻しないだろうと考え、立ち止まり、行きかたを教えました。するとなんとということか、そのおばあさんは一緒に行ってくれないかと言いました。市役所はそんなに遠くないもののそんなことをしては遅刻してしまいます。私は断ってまた歩き始めました。役所に着くとすぐ朝礼が始まりました。朝礼では重要な事務連絡もあるので、出ないと困ることになります。やれやれ間に合ったとほっとしたもの、善きサマリア人になれなかつたという後悔の念が起きてきました。善きサマリア人になるとは、その日の私にとって朝礼に遅刻することだったので。そして同僚から文句を言われても言い訳しないことだったので。「あなたも行って同じようにしなさい」(10:37)との主の命令は簡単でない実感したものです。

(新井)

年間第十六主日C (ルカ 10 : 38-42)

今日の福音はイエスの足もとに座ってイエスの話に聞き入る、マルタの姉妹マリアを述べています。マリアの姿は、心を静め全身全霊を傾けてイエスのみことばに聴き入る姿です。心の中心であり支えであるイエスへの熱い思いを素直に表していますが、誰にでもたやすく出来ることではありません。一方マルタはイエスを喜ばせようと、もてなしに心を奪われ、手伝わないマリアに不満でした。そのマルタにイエスは優しく「必要なことはただ一つである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない」(ルカ 10:42) と仰います。このイエスのことばはわたしたちの生活の要となるように思われますがよく考えないと誤解してしまいます。イエスは労働と祈りが同じ一つの神への愛の行為であることに気づかせてくださいます。仕事の初めから終わりまでその全てを祈りとして、イエスと共に捧げる愛の贈り物とすることが出来ます。自分の思いにこだわらず、イエスの望みに従い、イエスのために働くことが出来ます。労働と祈りについて確固としたキリスト教伝承があります。聖イグナチオの霊燥で、労働は働きの中の瞑想とされています。

マルタとマリアは二人とも神の恵みによって召し出された身分で、主に仕えています。しかしその働きは異なっています。人に心と体があるように、キリストの神秘体である教会にも霊的な面と人間的な面があります。マルタには人間的な面が強調されており、マリアには霊的な面が強調されています。二人ともキリストとその教会のために働いていますが働き方は異なっています。神は霊ですから、霊的な面での奉仕はより良いと考えられるでしょう。マルタの奉仕に悪いものは何ともありません。ただ、マルタはその奉仕の霊的な意味を見出すために、自分の心を神に向け、神に上げる努力が足りなかったと言えるでしょう。マルタも心を騒がせず、心を静めて家事に励みその全てをイエスへの愛の奉仕として捧げていったなら、神のみことばを観想し、神との親しい交わりを生きる喜びを味わうことが出来ていたでしょう。

福音が教えているように、主の足もとでその話を聴き入る者の邪魔をするものがあってはなりません。何者も主のみことばを宣教する者の邪魔をしてはなりません。念禱に習慣や伝統、規範や仕方などはありません。これは世間的でない次元のことで、最も大切な神と人との個人的な親しい関わりです。ですから神のみことばを聴くことを大切にしましたマリアは“良い方”を選んだのです。神のみことばを注意深く聴く者は、神の望みをそのまま行動に移すことができます。周りの人々への関心も深まり、優しい思いやりの心でその必要に気づき、助け合っていくことが出来るでしょう。

(Sr. Paulina)

年間第17主日

(ルカ11：1-13)

冒頭、イエスは祈っておられます。天の父とともに過ごす、語り合う大切な祈りの時。その祈りが終わったところで、弟子の一人がイエスに祈りを教えてくださいと願います。イエスの先駆者、洗礼者ヨハネも弟子たちとのグループを形成して、祈りを弟子たちに教えていたのでしょうか。イエスの弟子たちも同じ様に師であるイエスに願います。

イエスが教えた祈り、弟子たちにとって、私たちにとっても驚く様な祈り方でした。父よ…。神を「父」と呼ぶ。しかも「アッバ(父よ)」子どもが愛情を込めて、親しみをこめて呼ぶ。その様に、あなたがたも祈りのはじめにこの様に父を呼びなさいと。

そして神の御名が崇められますように…。神の国が来ますように…。神に向かって呼び掛けた後、神を崇め、神の国の到来を願う。何よりも第一に神について心に向けて、そしてそれから、次に自分の願うことについて願います。

神の子である私たちは、果たしてこの様に、主の祈りの様に祈っているのでしょうか、願っているのでしょうか。神様のことは横に置き、自分の願いを願っていないのでしょうか。みことばを通して、自分を見つめ振り返る様に…と招かれている様にも思います。

次に自分に必要な糧を願い、負い目のある人を赦すので罪を赦して下さいと願う様、最後に誘惑に遭わせないで下さいと祈る様、イエスは言われますが、いつくしみの特別聖年を祝っている私たちですが、人を赦し私たちの罪の赦しを願っているのでしょうか。

洗礼を受け神の子とされたキリスト者。洗礼までの罪が赦され、聖霊が降りました。パウロのコリントの書に「あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿…」とありますが、天の御父は聖霊を与えて下さったのです。最上のものを与えて下さる神である天の御父が、必要なものを与えて下さらないことがあるのでしょうか？

イエスが語られた様に、必要なことを神に願い求めましょう。自分のことだけでなく、神の恵みを必要としている人のためにも、心から祈り求めましょう。神に信頼して願い、祈る私たち。聖霊をいただいている私たちが、これからも神へのあつい信頼のうちに、祈りのうちに、ともに歩んでゆくことができますように。

(Fr. 古川利雅)

年間第18主日(C)

(ルカ12:13~21)

本日の福音は、イエスに兄弟との財産争いの調停者となって欲しいと言っている人の話から始まります。イエスは、その人の中に正義というよりは貪欲さがあるのを見て、そのような問題に巻き込まれるのを拒否されました。イエスは、「どんな貪欲にも注意を払い、用心なさい。有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである。」とていねいに注意しました。イエスは富に反対したのではなく、富を賢明に使うように求めたのです。

イエスは、物質的なものに夢中になってしまっている愚かな金持ちの話为例にとってこのことの説明をします。この人は自分の穀物をしまうのにもっと大きな納屋を建て、より大きくて安全な収納場所を確保しようと計画しました。この人は全く財産の奴隷となってしまっていました。いちばん大事にしたのは物質的なものによって幸福を求めることでした。これから先、何年間も幸せに過ごせることだろうと、この人は言いました。この瞬間、神はこの人の地上の全ての計画を覆すために介入されました。神はこの人を愚か者と呼びました。この言葉は神が存在することを否定する者に当てはめられる言葉です。神ははっきりとこの人に、今夜お前は死ぬだろうと言われました。この人の未来のための全ての計画は実現しないでしょう。この人は、神とは自分を守るものと信じて当然と決め込んでいました。

イエスご自身は、聴衆の為にこのたとえ話を当てはめました。霊的な富を無視して、つかの間で寄せ集めの富だけを考え続けている全ての人の運命であると、イエスは説明されました。全ての思いの中心がこの世の事に向けられている人にとって、地上の命の終わりはあまりに早くやって来ます。思いがけずあまりに早く積み上げてきている富を手放し、空の手で未来の命に直面しなければなりません。自分の生活をこの世の物事の追求に過ごし、霊的なものは何も蓄えていないかもしれません。自分は誰も傷つけていないし、何も悪いことはしていない、自分の手は清いですと、神の前に出て人は言います。しかし、神はその人を見て、でもあなたの手は空っぽですと言われます。

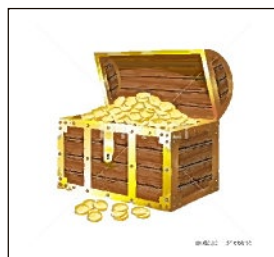
この教えの終わりに、イエスは天国に富を築くためにこの世の富を捨てるように聴衆を招きます。この福音の教訓は、はっきりしています。この世にあってこの世のものにとらわれないこと、正直な労働によってこの世の必需品を得てもそれらにとらわれないこと、この世の富を所有するがそれに所有されないこと、こういうことは私たちの弱い人間性は受入れにくい理想です。他人のために、また人類のために、自分の生活を犠牲にしている多くの人を見ています。しかし、自分たちの富だけに埋もれて、ほかのことは全て忘れている人はたくさんいます。イエスは、貪欲と利己心は人間には強い誘惑であると教えています。届けることができる以上のものを約束するという点で非常に誤りやすいのです。真の富と救いは、神と神の啓示であるイエスの教えに依っています。結局、全てが恵みの問題であり、未来のために富や所有物を蓄えるという問題ではないのです。

(Sr. Paulina)

糸巻き棒からペンへ(11)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OGD



かろうじて600万の人口にとって、直面する問題は、あまりにも多過ぎました。スペインの家庭は、次から次へと男たちが旅立っていくのを見送りました。土地を耕すために必要な人手が欠け始めました。このことは、何年か続いた旱魃や、戦争という大きな組織を維持するために増税が続いたことにより、移住できない人々の間に飢餓と貧困を引き起こしました。十字架の聖ヨハネの家族は、その良い例でしょう。父と兄は飢えで死にました。もう一人の兄は、残りの生涯を何とかやりくりして生き延びました。余裕のある人々は、みなアメリカへ移住しました。

アメリカの金や銀——大量の金や銀が、ガレー船から直接外国の高利貸しの倉庫に運ばれたにもかかわらず——の到着は、インフレを増大させました。さまざまな機会に、国は破産したことを宣言しなければなりませんでした。これらすべての状況は、民衆の無数の暴動を引き起こしましたが、これらはみな容赦なく弾圧されました。民衆は、その才能を発揮し、生き延びるために、数限りない策略を生み出さねばなりませんでした。『セレスティーナ』あるいは『ラサリッジョ・デ・トルメス』といった現実主義的でピカレスクな文学は、当時の矛盾を完璧に表現しています。

社会階層

その時代の第二の特徴は、人々をはっきりと限定された社会階層に厳格に分類したことです。それによって、自己紹介の仕方やあらゆる場合における振る舞いや役割が、実によく規定されていました。五つの階層に分けることができます（各階層の中にまたさまざまな段階があります）。

—貴族は、支配者の階層を形成していました。彼らは土地と消費財の大半を所有し、公の（市民生活だけでなく教会生活も含む）行政管理の中心的ポストに就いていました。彼らは地代や小作料で生活し、肉体労働を拒否し、納税義務を免除され、何らかの罪で裁かれたり、拷問されたり、一般の刑務所に入れられ、（絞首刑のような）「不名誉な」死を宣告されないように、自分の裁判所を持っていました。彼らの間では、しきたりや肩書や尊称があふれかえていました（『自叙伝』37, 6-10）。

（九里訳）

「神は愛である」という定義があり、これを私たちはきっと百万回くらいは目にし、耳にしたことでしょう。

それから・・・愛とは何かと問い、愛とは死ぬことですか、愛するとは心をひらくことだと答え、こうした問答をきっと百万回くらいは心にめぐらしたかもしれません。

そして・・・私たちはどこかで知っています。この定義も問いも答えも私たち自身をはるかに凌駕することを。

それと・・・このことも知っているのです。死ぬのは(肉体の死だけではなく)もちろん嫌ですが、心をひらくのも傷つくことが絶対に必然なので、百万回くらいは避けていることを。

少し前2月号に、佐野洋子作絵本「百万回生きたねこ」にふれました。

相手は親しみ愛してくれているのに、誰のことも好きではなく、百万回死んでも百万回生きたねこが、白いねこに出会ってしまい、心をひらいてしまい、心を通わせてしまい、愛してしまっ、白いねここといつまでも生きていたいと思ったけれど、白いねこは死んで、ある日ねこ自身も死ぬのですが、ねこはもうけっして生きかえりませんでした。というお話です。

実は先ごろ、この絵本に捧げられている本をみつけました。

「絵本『百万回生きたねこ』と作者佐野洋子さんに愛をこめて」との献詞をもって、13人の作家たちが短篇を寄せているのです。そのメンバーたるや錚錚たるもので、もと夫の谷川俊太郎、子息の広瀬弦、江國香織、角田光代、町田康、川上弘美、山田詠美、綿矢りさ などなどが一堂に揃い、よだれが出そうです。

そして、この短篇集は「百万分の1回のねこ」という何とも深遠な、叡智にあふれたうがったタイトルで、意図する定かな意味はわからないままに、私は思わずニヤリと頬をゆるめました。

13人の作家たちの物語は、どれもみな想像力、創造力豊かで面白く、愛するというテーマもそれぞれ多彩な趣向に感嘆します。

「もう生まれかわらなくてもいいと思えるくらい きちんと人を 何ものかを愛したいと思う」という一人の作家の言葉は、胸に響きます。

「誰かをコッコロから好きになったりしたら 身の破滅 一巻の終わりだもの」と、人を好きになるまいなるまいと努めている「生きる気まんまんだった女の子の話」というお話は、ずしんと心に届きます。 また、「女をたらしこん

で「日々の糧を得ているだけ」のホストから、絵本「百万回生きたねこ」をプレゼントされて、読んだら泣いてしまい、女友達から「明美 あんた運のつきだ」と言われる。ホストは「この本で泣くか泣かないかで心の綺麗さをテストしている」というのです。ホスト自身は「めっちゃ泣きだよ やっと愛を知ったねこのせつなさを思うと今でも泣けてくる」と、この絵本にぞっこんなのですが・・・この明美さんのお話もとても切なく哀しいです。

物語を楽しく面白く読みながら、愛すること、心ひらくということが、いわゆる熱の高い快さ、心の満足というよりは、自分を満たすものが少しも感じられないなかで、自己防衛も忘れひたすらに今ここを愚直に生き通す、云ってみればうんざりする日常にこそ、あなたは愛したのではないかと、聖い光が注がれるような感じを受けて、私の魂は深い平安を覚えていました。

いつも心に留めていることなのですが、あらためて思い起こします。

生まれることと死ぬことは、私たちにとって100%の完璧な出来事です。

80%生まれたとか20%死んだというような中途半端なことは、他のことと違ってあり得ません。この100%はもしかしたら愛というほかないのではと思っています。

愛されて愛されて愛されてでなければ、私たちは生まれてくることができず、愛されていることに魂が「はい」と応答しなければ、私たちは死んでいくことはできないと思っています。いかなる状況でも生まれたのなら愛されているし、いかなる状況でも死んで生き返らないのなら愛の内にあるのだと思うのです。

そして今このとき、主イエズスを想うなら、神は愛であることも、愛は死ぬことであるのも、愛するとは心ひらくことなのだというのも、私の魂は百万分の1回をもって知ることができるような気がします。百万分の1回とは何であるのかを、定かにわからないままにです。

私たちは来たる日の完成を待って、限りない希望をもって今このときここにいるのです。この希望の中でこそ私たちは「永遠のいのちを信じます」と日々宣言できることを「百万分の1回のねこ」を抱え、しみじみ思ったりでした。

それにしても、この本は佐野洋子氏への何と愛に満ち満ちた追懐でしょうか。

いのちの言葉 7月

互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによって
あなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい

(エフェソ 4・32)

「あなたを愛しています」、この言葉より美しい言葉が他にあるでしょうか。自分を愛してくれる人がいれば、もう一人ぼっちではなく自信をもって前進でき、困難や苦しみにも立ち向かうことができるでしょう。さらに、この愛が相互のものになるならどうでしょう。希望と信頼は強められ自分が守られていると感じるのではないのでしょうか。

ご存知のように、子供たちが健やかに成長するためには愛に満ちた環境と彼らを愛してくれる人々が必要ですが、これは年齢に関係なく幾つになっても言えることでしょう。そのために、今月のみ言葉は互いに「親切」でありなさい、つまり、「愛し合いなさい」と私たちに勧め、神ご自身をそのお手本として示しています。

この神様のお手本は、人を愛することが単なる感情ではないこと、それどころか「相手の善を願う」ため、多くの具体的な行動と自己犠牲を求められることを思い起こさせてくれます。

イエスのうちにその手本が見られます。彼は病人や貧しい人々に寄り添い、群衆を憐れに思い、罪人を慈しみ、ご自分を十字架につけた人々を赦すまでに彼らを愛されました。

私たちにとっても、「相手の善を願う」とは、相手に耳を傾け、その人に心から注意をはらい、喜びや試練を共有し、お世話をし、その人と共に歩んでいくことを意味するでしょう。相手は自分にとって決して無関係な人ではなく、むしろ自分にとって兄弟姉妹のような存在だと思うなら彼らに奉仕したいと願うのではないのでしょうか。

しかし、それとは全く逆に、相手のことを自分のライバル、競争相手、敵と見なすならどうでしょう。相手の災いを願ったり、その人を踏みつけたり、日々新聞やニュースで報じられるような殺人にまで至ることもあり得るでしょう。

そこまでいかないにせよ、私たちの場合も自分に悪いことをした人、好感を持たない人に恨みや不信感、憎しみを抱いたり、あるいは、自分とは全く異なる人に対して、無関心であったり、全く興味がなかったりということはないのでしょうか。

今月のみ言葉「互いに親切にし」は、憐れみの道を選ぶ生き方を意味しています。つまり、いつもお互いに誤ちや失敗をゆるし合う生き方です。

キアラ・ルービックは、フォコラーレの共同体が生まれたばかりの頃「イエスの掟」を生きるために、仲間たちと「相互愛の約束」を交わした経験を次のように語っています。

「約束はしたものの、特にはじめの頃、私たち若い女性のグループにとって愛に徹して生きることは簡単ではありませんでした。神様からの特別な賜物に支えられてはいても、私たちも他の人達と同じで、お互いの関係に埃が溜まり、お互いの間の一致も弱まってしまふことがありました。実際、相手の欠点や不完全さを目にするるとすぐに相手を裁いてしまい、相互愛がすっかり冷え切ってしまうこともしばしばありました。

そのような難しい状況から抜け出すために、ある日、私と仲間たちは一つの約束を交わしました。それを『憐れみの約束』と呼びました。

それからは、毎朝、私たちはフォコラーレの中で、または、学校や職場で、出会う一人ひとりを全く新しい目で見ようと固い決心をしました。相手の短所や欠点を完全に忘れ去るようにし、さらにそれを愛でカバーするように努めました。全てを全面的にゆるすという心構えで、あらゆる人に接するように心がけました。

仲間たちと誓ったこの『憐れみの約束』は、とても真剣なものでした。この約束は、すべてを許し、さらに、犯した過ちをも忘れ去ってくださる憐れみ深い神様に倣って生きるよう私たちを促し、自分から先に愛せるように私たちを助けてくれました。」¹と語っています。

「憐れみの約束」！ 愛のうちに私たちが成長していくために、この約束はとても良い方法だとは思いませんか。

ファビオ・チャルディ神父

*2016年度の「いのちの言葉」は、フォコラーレ本部のファビオ・チャルディ神父によります。

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

●お知らせ いのちの言葉の集い

関東 7月10日(日) 13:30~ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室
(週日に、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 7月10日(日) 14:00~ 瀬戸市みずの坂サポートハウス「ゆうや」

近畿 7月31日(日) 13:30~ 大阪カトリック香里教会

連絡先:フォコラーレ 03-3707-4018/03-5370-6424

長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ: conill57chl.wix.com/focolare-jp

¹『隣人への愛』友人のイスラム教徒との会話より抜粋(2002年11月1日、カルテルガンドルフォにて)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

2016年5月2日

跣足カルメル修道会司祭、マリー・エウジェンヌ神父 についての小冊子

マリー・エウジェンヌ神父のとりつぎによる奇跡が承認された後、アヴィニョン教区と跣足カルメル修道会とノートルダム・ド・ヴィ (在俗会) は、彼についての小冊子を準備しました。それは、彼の列福の意義や彼の教えのいくつかの重要な点について紹介するものです。

当初、出版物として意図されたこの小冊子は、単純に読みやすいスタイルで書かれていますので、マリー・エウジェンヌ神父をまだ知らない人々に、彼について紹介するものとしても有益でしょう。

小冊子は、ドイツ語、フランス語、スペイン語、英語、ポーランド語で次のリンクから見る事が出来ます。



<https://drive.google.com/open?id=0BwJEzzuh4mb7aXRHY2R2NTV3RDA>

これにリンクできず、なお小冊子を希望する方は、Eメール：ocdinform@gmail.com から得る事が出来ます。どうぞ、お読みください。

Dossier de presse

LE 4 MARS 2016
LE PAPE FRANCOIS A AUTORISÉ
L'ÉGLISE À PROCÉDER À LA
BÉATIFICATION
du Vénéérable



Père Marie-Eugène de l'Enfant Jésus,
Henri Grialou,
1894-1967
Carme Déchaux,
Fondateur de l'Institut Notre-Dame de Vie



De la part
Diocèse d'Avignon

Ordre des Carmes déchaux

Institut séculier Notre-Dame de Vie



-1-

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< **Communications** (時事通信) >>

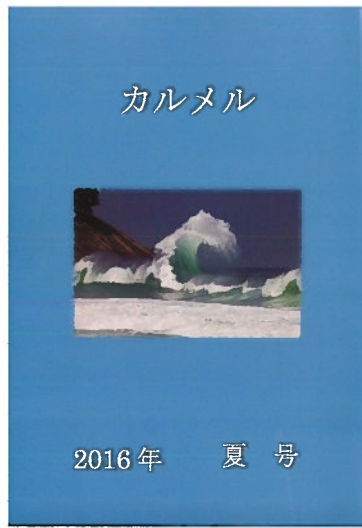
27//04//2016

Most Reverend Julio Xavier Labayen, OCD has gone Home to His Creator

Most Reverend Julio Xavier Labayen, OCD (July 23, 1926 - April 27, 2016) a Discalced Carmelite bishop, who is a servant-leader-pastor in the Prelature of Infanta (Philippines) for 40 years has gone Home to His Creator. He is known for being a compassionate pastor with a burning heart for the "Church of the Poor." "The Church of the poor is the Church with a mother's heart. Mothers will not think twice on whom to give their attention, care, love and time except to the child most in need," the Bishop once said. We pray for his Eternal Repose.



「カルメル」
今日の霊性・夏号
今日の霊性・特集号



2016 夏 No.361 2016 特集号

神が慈しまれた道 (10)	マリアの信仰 (2)	風が吹かれて (8) 物あふれ心さまよう——流行とは	「いつくしみの特別聖年」にあたって 見捨てられた子供は幼いイエス	神のいつくしみ深い愛とテレイズ ——神のいつくしみ深い愛に身をささげる	いつくしみの秘義を生きる (2)	「いつくしみの特別聖年」の意義について 聖パウロが体験した神のあわれみと現代社会のありかた	「いつくしみの特別聖年」を迎えて (2)	神のいつくしみ ——テレイズの果てしない希望	いつくしみの秘義である教会	神の慈しみの秘として見たカトリック幼稚園と幼児教育	◎ 目次 ◎
奥村一郎	ポーリン・フェルナンデス	原 造	中山真里	伊従信子	須沢かおり	田畑邦治	九里 彰	伊従信子	今辰 健	三上和久	
50	42	39	33	24	16	9	3	38	12	2	

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。定価は、一冊460円です。
(サンパウロ、ドンボスコ書店、イグナチオ教会案内所、上野毛教会の信徒ホール本コーナー、カルメル会上野毛修道院黙想の家等)

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL (03) 5706-8356

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

上野毛霊性センター 2016年4月～2017年3月

黙想企画 **上野毛聖テレジア修道院(黙想)**

1. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2016年12月24日(土)～25日(日)朝食《講話なし、夕食なし》

2. 日帰り一日黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

[聖人たちを支えた神のことば]

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように……。

2016年

7/8 (金)、7/21 (木)、9/8 (木)、9/16 (金)、10/28 (金)、
11/11 (金)、11/24 (木) 12/9 (金)、12/22 (木)

2017年

1/12 (木)、1/27 (金)、2/9 (木)、2/24 (金)、3/9 (金)
3/24 (金)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

3. 奉献生活者のための黙想会

2016年

7月31日(日) 18時～	8月 9日(火) 朝	福田正範神父
8月12日(金) 18時～	8月21日(日) 朝	福田正範神父
10月13日(木) 18時～	10月22日(土) 朝	福田正範神父
12月27日(火) 18時～	2017年1月5日(木) 朝	福田正範神父

4. 青年黙想会(男女)

2016年

11月26日(土) 16時～27日(日) 16時

5. 召命黙想会(男女)

2016年

10月8日(土) 16時～10日(月) 16時

6. 聖週間前の黙想会 福田正範神父

2017年

3月 18日(土) 18時夕食～20日(月) 16時

7. 特別黙想会 Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2016年

10月28日(金) 20時～30日(日) 16時



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願い致します。

間違いを避けるためなるべくFAX・はがき・Eメール等でお願ひできますならば幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel : (03) 5706-7355 Fax : (03) 3704-1789

Eメール : mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>

*****日帰り黙想会*****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニムスは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25)信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように…。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

*企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。

午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時~ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

日時： 2016年 7月 8日(金) 午後1時30分~午後4時

7月21日(木) ”

9月 8日(木) ”

9月16日(金) ”



お問合せ・お申込み+

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789 Eメール:

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

カルメル山の聖母の祭日と祝会のお知らせ

東京 上野毛教会



7月16日（土）カルメル山の聖母の祭日ミサ

ミサ（聖堂） 6:30 10:00 19:30

（10:00 ミサで、志村武修士の荘厳誓願式が行われます）

お祝い会（信徒会館ホール）10:00 ミサ後

スカプラリオ授与式 19:30 ミサ後

（6:30, 10:00 ミサ後はスカプラリオ授与式はありません）

7月17日（日）カルメル山の聖母を祝うミサ

ミサ（聖堂）10:30

スカプラリオ授与式 10:30 ミサ後

※スカプラリオをご希望の方は当日、聖堂前でお申込み下さい。

カトリック上野毛教会・カルメル会修道会上野毛修道院

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

TEL 03-3704-2171

2016年 黙想会案内

(宇治カルメル会)

【一般のための黙想】

- ・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)

9月10日(土)～11日 人生の実りを思いめぐらす 中川博道神父

【聖書深読黙想会】

- ・ 1日 (午前10時～午後4時)

7月2日(土) 9月10日(土) 10月22日(土) 中川博道神父

【水曜黙想】

(午前10時～午後4時)

7月20日(水)	神のいつくしみと十字架の聖ヨハネ	松田浩一神父
9月21日(水)	神のいつくしみとエディット シュタイン	松田浩一神父
10月19日(水)	神に愛されている喜び	シスタ・ロサ
11月16日(水)	いつくしみの御母、聖マリア	松田浩一神父

【キリスト教霊的同伴】

(金曜日：夕食なし) 午後8時～午後3時まで

7月8日～9日(土)	10月21日～22日(土)	松田浩一神父
9月2日～3日(土)	11月11日～12日(土)	松田浩一神父
	12月2日～3日(土)	松田浩一神父

【待降節の黙想】

12月10日(土)～11日(日) 夜露のように静かに訪れる神を待つ
(午後5時～午後4時) 中川博通神父

【聖テレーズの黙想】

9月30日(金)～10月1日(土) 伊従 師
(午後5時～午後4時)

【一般のためのカルメルの霊性セミナー】

10月14日（金）～15日（土） イエスの聖テレサの霊性 松田浩一神父
（午前10時～午後4時）

12月13日（火）～14日（水） 十字架の聖ヨハネの霊性（2） 松田浩一神父
（午後5時～午後4時）

【奉献生活者の黙想】

（午後5時～午前9時）

8月2日（火）～11日（木） 中川博道神父
8月15日（月）～24日（水） 松田浩一神父
12月27日（火）～1月5日（木） 松田浩一神父

【English Retreat】

11月26日（土） Maranatha-Come Lord Jesus シスタ.-ロサ
（10am to 4pm）

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
12月24日（土）～12月25日（日） {講話なし、各食事つき}

ーその他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。ー

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけ FAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人のための霊的同伴』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

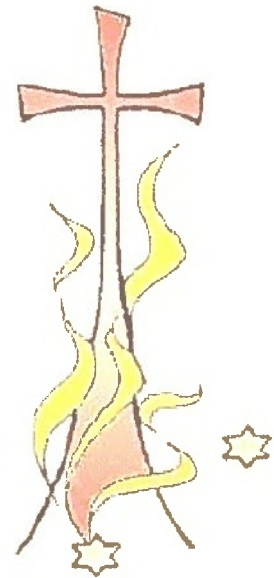
【内容】

- この企画は、キリストと各人との人格的交わりを深めるものでありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにした祈りのひと時です。

【参加者人数】 6 名

【開催日】 2016年 2月19日(金)～20日(土) 終了
3月18日(金)～19日(土) 終了
6月 3日(金)～ 4日(土) 終了
7月 8日(金)～ 9日(土)
9月 2日(金)～ 3日(土)
10月21日(金)～22日(土)
11月11日(金)～12日(土)
12月 2日(金)～ 3日(土)

(毎回金曜日 20 時(夕食なし)～土曜日 15 時)



【参加費】 各回 6,500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

いつくしみの特別聖年：聖テレーズの黙想会

2,016年9月30日（月曜日）午後5時—10月1日（火曜日）午後4時

テレーズの命日（9月30日）、祝日（10月1日）に

わたしは死ぬのではありません

命にはいるのです！



テレーズとともに

静かなひと時を過ごしませんか



わたしの使命がはじまろうとしています。

人々に 神様を愛させる使命が...

神さまがわたしの望みをかなえてくださるなら
天国にしながら

わたしは世の終わりまで、

地上の人々を助けることになります。

指導： 伊従 信子

場所： カルメル会 聖テレジア宇治修道院（黙想）

611-0022 宇治市木幡御蔵山39-1

持参するもの： 新約聖書、『弱さと神の慈しみ』（サン・パウロ社）

申し込み先：fax 0774-32-7457, 電話 0774-32-7016

e-mail teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

《 名古屋一日静修 》



神のいつくしみに学ぶ — 特別聖年を迎えて —

1. 日時： 7月18日（月）「十字架の聖ヨハネを捕らえた神のいつくしみ」
Sr. 伊従 信子（ノートルダム・ド・ヴィ）
9月19日（月）「いつくしみの泉である教会」
今泉 健 神父
11月23日（水）「神のいつくしみの生きた証人となれ…」
（福者フランシスコ・パラウと他）
Sr. ポーリン・フェルナンデス（カルメル宣教修道女会）

* 訂正とお詫び：講師 Sr. 伊従の都合により、当初予定しておりました11月を7月と入れ替わる事になりましたので、訂正しご案内申し上げます。既にお申込みいただきました皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解の上ご参加くださいますようお願い致します。

2. 場所：カトリック日比野教会 信徒会館
（地下鉄・名港線日比野駅下車 徒歩約5分）
3. 参加費：1000円
4. 持ち物：聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当
5. プログラム
10:00 導入の祈り（聖堂）
10:20 第一講話（信徒会館）
11:30 念祷 ① 赦しの秘跡または面接
12:00 昼食（信徒会館）
12:30 念祷 ② 赦しの秘跡または面接
13:00 第二講話
14:00 念祷 ③
14:30 ミサ（聖堂）
15:30 茶話会（信徒会館）
16:00 終了の祈り

6. 申し込み：下記いずれかの方法でお申込み下さい。
FAX / 0568 - 62 - 5167
mail / seisyuu_2015@yahoo.co.jp
ハガキ / 〒484-0076 犬山市橋爪一丁田1-26
「名古屋一日静修」係り

〈カルメル修道会主催 名古屋カルメル在世会協賛〉

霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしく願いいたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：7205805
名義：男子跣足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：56845391
名義：男子跣足カルメル修道会

男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大室 4-5-17
Tel：052-571-1558 Fax：052-681-6445

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願ひ致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2016年予定

N1	02/26 (金) -03/03 (木)	滋賀唐崎・ノートルダム
N2	05/07 (土) -05/13 (金)	滋賀唐崎・ノートルダム
K1	06/13 (月) -06/19 (日)	東京・小金井・聖霊会
K2	10/01 (土) -10/07 (金)	東京・小金井・聖霊会
N3	10/20 (木) -10/26 (水)	滋賀唐崎・ノートルダム
K3	12/05 (月) -12/11 (日)	東京・小金井・聖霊会

2017年予定

N1	05/07 (日) -05/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
N2	10/10 (火) -10/16 (月)	滋賀唐崎・ノートルダム

年間のテーマ

イエスとの出会い
その喜びを味わう

(レクティオ ディヴィナ)



2016年度行事のご案内

祈りの集い(10時~15:00時)

1月14日	イエスの誕生 (ルカ 2:1-14)	9月08日	ベトザタの病人 (ヨハネ 5:1-18)
2月11日	アンデレ (ヨハネ 1:35-43)	10月13日	マグダラのマリア (ヨハネ 20:11-16)
3月10日	ニコデモ (ヨハネ 3:1-8)	11月10日	フィリポ (ヨハネ 14:7-14)
4月14日	トマス (ヨハネ 20:19-28)	12月08日	ペトロ (ヨハネ 21:15-19)
5月12日	イエスの愛する弟子 (ヨハネ 21:1-7)		
6月09日	ザアカイ (ルカ 19:1-9)		
7月14日	サマリアの女 (ヨハネ 4:6-30)		
8月	休み		

指導者: フランコ神父

☎ 個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7
☎ 0968.85.3100
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー 下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2016年度 夏学期: 理性の自律と心の愛
7/2, 7/9, 7/23, 9/3, 9/10, 9/17
冬学期: 10/1, 10/8, 10/15, 10/22, 10/29, 11/5

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」 毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月9日、12月27日は休み。
8月23日は、上智大学内クルトゥルハイム2F聖堂。
・「お昼の黙想」 毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月2日、11月1日は休み。
・「水曜日ミサ後の黙想」 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。
どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。
・「通う霊操」 8月20日(土)～8月28日(日)
18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

・「黙想会」

6月18日(土)10時～19日(日)14時(上石神井)、11月19日(土)～20日(日)(上石神井)、2017年2月18日(土)～19日(日)(上石神井)、1泊2日、7,000円位。申込の締切期、初日の8日前。
[関西] 9月24日(土)13時30分～25日(日)15時(宝塚黙想の家)。Tel.0797-84-7863 (Sr.田中)。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。
2016年
7月2日、8月6日、9月10日、
10月1日、11月12日、12月3日
2017年
1月14日、2月25日、3月11日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●坐禅会

・月曜日、木曜日 17時45分～20時10分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。(祝日、5月2日、8月全体、10月31日、12月26、29日は休み)

●坐禅接心

8月7日(日) 20時20分～13日(土) 8時30分
10月30日(日) 20時20分～11月3日(木) 8時30分
秋川神冥窟。1泊 2,400円(+暖房費)程度。
事前申込み要。
[関西]
7月30日(土)17時45分～8月5日(金)15時。
宝塚黙想の家。事前の申込み要。
Tel.0797-84-7863. (Sr.田中)

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。
10月15日(土)、2017年1月29日(日)。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2016-17年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- イエス(上智大学内クルトウルハイム2階)
- 7/1 イエスの生き方— 神に遣わされて人に仕える
- 7/8 イエスのたとえ話— 神の働きを語る
- 7/15 イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に
- 7/22 イエスは誰か— イエスの自己理解
- 7/23 ◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトウルハイム2階聖堂、定員80人)
- 7/29 最後の晩餐— 自分を与えるイエス
- 8/5,12 ○休み
- 8/19 イエスの受難— その史実と意図
- 8/20-28 ●通う霊操(18時-20時45分)
- 8/26 イエスの死— その救済的意義
(8月中 上智大学内クルトウルハイム2階聖堂)
- 9/2 聖書のイエス像— ヨハネとパウロの見たイエス
- 9/9 ○休み
- 9/16 イエスの復活— 今に生きるイエス
- 9/23 聖霊— 神の愛に導かれる
- 9/30 祈りの本質とさまざまな祈り方— 神と関わる
- 10/7 洗礼と堅信— イエスに結ばれて生きる
- 10/14 教会の成立と意味— イエスを中心に集う
- 10/21 人間としてのイエス— 新しい人間像の基礎づけ
- 10/28 御子としてのイエス— 神との関係
- 11/4 父と子と聖霊— 神の生命に与る
- 11/11 信仰の決断— 支えられて生きる
- 11/18 ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧
- 11/19-20 ●黙想会(上石神井)
- 11/25 自己実現と神の意志— 生き方の規範
- 12/2 人間の弱さ— 罪とは何か
- 12/9 恵みとゆるし— 神の憐みを受ける
- 12/10 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17:30パーティ、岐部ホール4階404,要申込み)

キリスト教理解講座 2015年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [神]
- 7/5 「私は在る」— 旧約における神の自己啓示と預言
- 7/19 神の語りかけ — 「契約」と「救い主」の待望
- 7/23 ◆感謝のミサ(14時、クルトウルハイム2階聖堂、定員80人)
- 8/2 ○休み
- 8/16 将来の約束 — 自立した世界の中の導き
- 8/20-28 ●通う霊操 (18時-20時45分)
- [イエス]
- 8/30 史的イエス — 活動と生き方の特徴
(8月中 上智大学内クルトウルハイム2階聖堂)
- 9/6 神の国 — イエスの使信
- 9/20 根本たる愛 — 律法の完成と克服
- 10/4 受難による救い — イエスの救済的役割
- 10/18 死からの命 — 復活の認識・経験・理解
- 11/1 ○休み
- 11/15 キリストはだれか — キリスト理解の発展
- 11/19-20 ●黙想会(上石神井)
- 11/29 御子の受肉 — 神の子と人の子

- [聖霊]
- 12/6 神の内的現存 — 人間における聖霊の働き

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い
カルメルの靈性に学びつつ、
キリスト者としての靈性を養うための
沈黙の祈りで構成された集いです



東京 いくくしみの特別聖年を生きる：
7月16（土）午後2時～午後5時30分
「ナザレの生活」
講話：伊従信子
祈り・質問・分かち合い
8月 休み
参加費 200円

~~~~~

お申し込み・問い合わせ：東京ノートルダム・ド・ヴィ  
〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35  
TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254  
e-mail [notredamedevie.japan@gmail.com](mailto:notredamedevie.japan@gmail.com)

**京都**  
7月2日（土）13時半～15時 京都NDV 担当：伊従信子  
\* 「苦しみの使徒職」、三位一体の聖エリザベト  
『神はわたしのうちに、わたしは神のうちに』 聖母の騎士聖母文庫  
7月12日（火）13時半～15時半 河原町カトリック会館3階304室  
\* 『弱さと神の慈しみ』伊従編著、サンパウロ出版 担当：伊従信子  
\* 祈り：「都の聖母」聖堂にて 15～15時半 7月2日（土）  
8月 休み

~~~~~

お問い合わせ 京都ノートルダム・ド・ヴィ
〒603-8378 京都府京都市北区衣笠御所ノ内町4
TEL・FAX(075-462-3525)
e mail : ndvkyoto@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・・・開始日の8日前で締切ります

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
サダナ I	7/15(金)17:30- 7/18(月)16:00	Fr植栗	女子御受難修道院 (宝塚市)	大倉本子 Tel 078-811-2706
サダナ I	8/17(水)- 19(金) 9:00-17:00 *3日間通い	Fr植栗	藤学園 キノルド資料館ホール (札幌市北区)	白鳥 栄 Tel 011-666-5622 080-1875-6682
サダナ I	8/22(月)- 24(水) 9:00-17:00 *3日間通い	Fr植栗	マリアの宣教者フラン シスコ会北広島修道院 (北海道北広島市)	皆木 智子 Tel 011-373-1568 090-2815-2271
サダナ I	9/2(金)17:30- 9/5(月)16:00	Frマルコ・ アントニオ Fr植栗	聖ドミニコ女子修道院(仙台市青葉区) Sr内原 わさ (郵送または Fax) 983-0833 仙台市宮城野区東仙台6-8-25 オタワ愛徳修道院 Fax 022-293-3675	
フォローアッ プ	9/1(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※ Tel&Fax 03-5918-9870

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門 A. B. C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナ I を終えた方。

◆入門 C・・・入門 A または入門 B を終えた方。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
Eメール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2016年 5月 6日(金)～ 5月14日(土)
- ② 8月14日(日)～ 8月22日(月)
- ③ 10月19日(水)～ 10月27日(木)
- ④ 12月27日(火)～ 2017年1月4日(水)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2016年 2月 5日(金)～ 2月7日(日)
- ② 2月26日(金)～ 2月28日(日)
- ③ 3月18日(金)～ 3月20日(日)
- ④ 6月17日(金)～ 6月19日(日)
- ⑤ 7月22日(金)～ 7月24日(日)
- ⑥ 9月16日(金)～ 9月18日(日)
- ⑦ 11月18日(金)～11月20日(日)

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2016年 5月30日(月)～ 6月7日(火) 中川博道 師（カメル会）

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

神のいつくしみを生きる

2016年度 青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	5月21日(土)～22日(日)	闇と光	山内十束師(ご受難会)
2	7月9日(土)～10日(日)	冬と春	山内十束師(ご受難会)
3	11月12日(土)～13日(日)	絶望と希望	山内十束師(ご受難会)
4	2月18日(土)～19日(日)	罪と恵み	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

神のいつくしみを生きる

—冬と春—

2016年度 第2回 青年黙想会

日時： 7月9日 (土) 15:00 ~

10日 (日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2016年7月3日 (日) まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00

【2016年予定】

- 3月17日(木)『霊の賛歌』第1回目：導入の講話（緒言と詩）終了
- 5月26日(木)『霊の賛歌』第2回目：はしがき・概要・注解 終了
- 7月21日(木)『霊の賛歌』第3回目：第一の歌（2～12）
- 9月22日(木)『霊の賛歌』第4回目：第一の歌（13～22）
- 11月17日(木)『霊の賛歌』第5回目：第二の歌
- 12月15日(木)『霊の賛歌』第5回目：第三の歌

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会日本管区長）



＜＜特別黙想会＞＞

日時：2016年12月17日(土) 4時半受付～18日(日) 午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

テーマ：「神のいつくしみに気づく」

指導司祭：九里彰神父

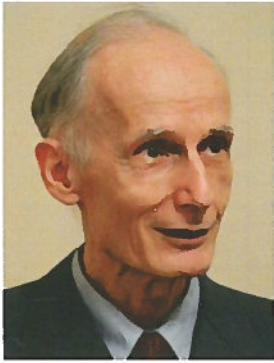
申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論	定価(本体+税)
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想	
	日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質	
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論	
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拓けて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践	
	信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学の人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知泉書館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

http://www.chisen.co.jp

霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171 Fax: 03-3704-1789

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google: 「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

悲劇が起きてしまった。4月4日、インドネシアのカルメル会から来日し、日本語の勉強を始めたばかりのチャールズ・テナ助祭が悪性リンパ腫にかかり、6月21日（火）未明、日本とインドネシアの多くの人々の熱烈な祈りもむなしく、32歳の若さで帰天してしまった。

ちょうど一か月前、お腹の不調を訴えていた彼を、皆が無理矢理病院へ連れて行った。原因が分からず、検査を繰り返し、一時、修道院にもどったが、また容態が悪くなり、再入院。その後は、見る間に悪くなっていった。腹水がたまり、大きなお腹となり、また胸水もたまり始めた。

6月6日（月）に外科手術をしたが、腫瘍は大きすぎて切除できず、後は、最新の化学療法が頼みの綱となった。が、これを行える病院への転院手続きがなかなか進まず、ようやく決まった転院の日は、6月22日（水）、死の翌日であった。

6月21日（火）は、奇しくも、23歳で夭折した聖アロイジオ・ゴンザガの記念日であった。チャールズ助祭は、2004年7月16日にカルメル会へ入会、最後の1か月は苦しい十字架の道となったが、その苦しみによく耐え、ほぼ12年の修道生活を立派に走りとおした。今は入会の時迎えてくださったカルメル山の聖母マリアのもとで永遠の安息に入っていることであろう。道半ばで倒れた彼のために、また残されたご両親とご家族の上に、神が必要な助けと慰めをお与えくださるよう切に祈りたい。

(P.九里)



***** 8月休刊のお知らせ *****

「霊性センターニュース」は、8月（号）休刊（7月送付無し）となります。
9月号は、8月下旬発送予定です。ご了承下さい。



~~~~ 製本／発送のご協力お願い ~~~~

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。  
作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。  
初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「9月号」製本日 **8月30日(火)** 上野毛教会信徒会館ホール 1階  
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171